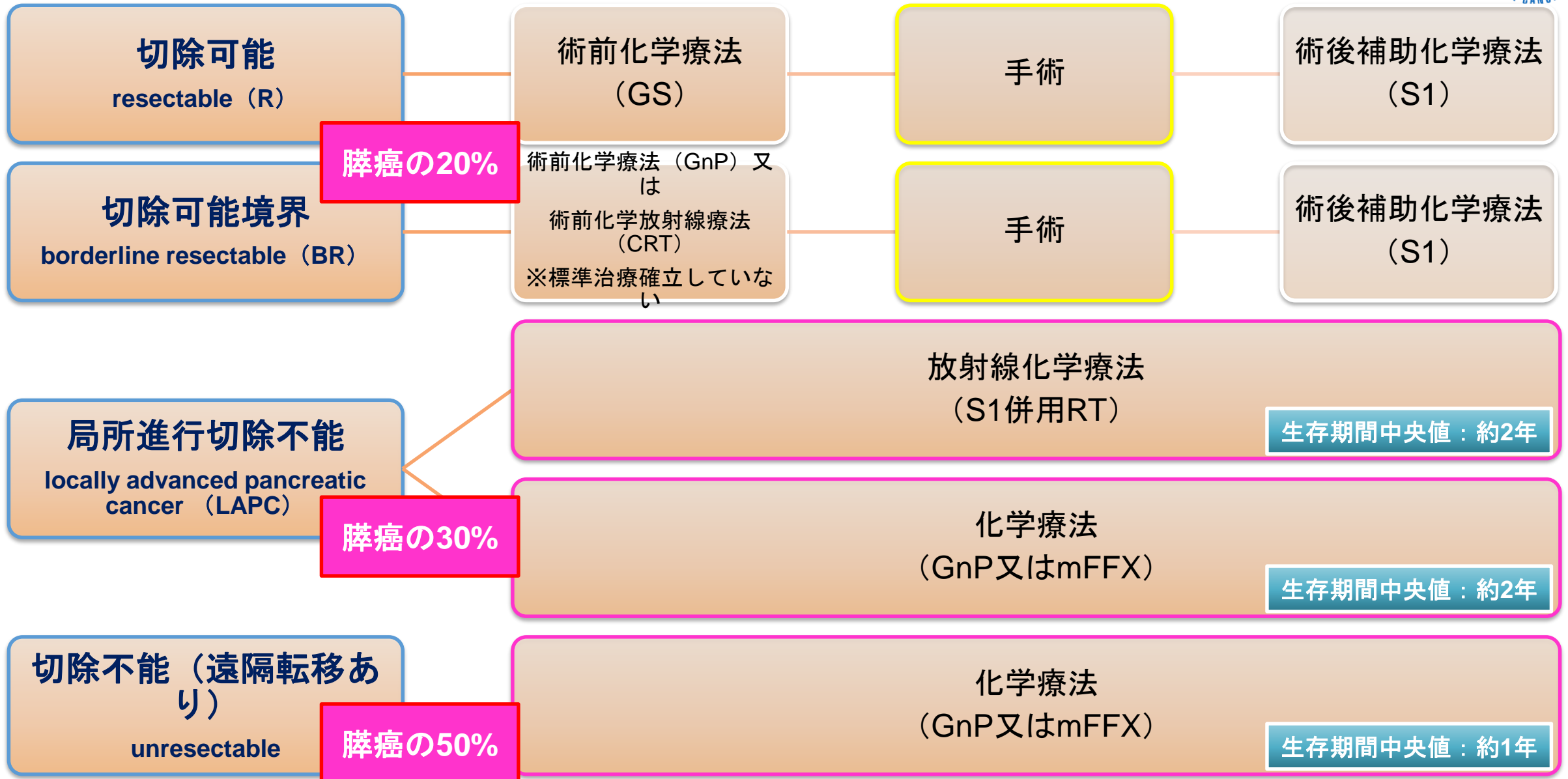


# 膵がんの集学的治療

消化器内科 上野 誠

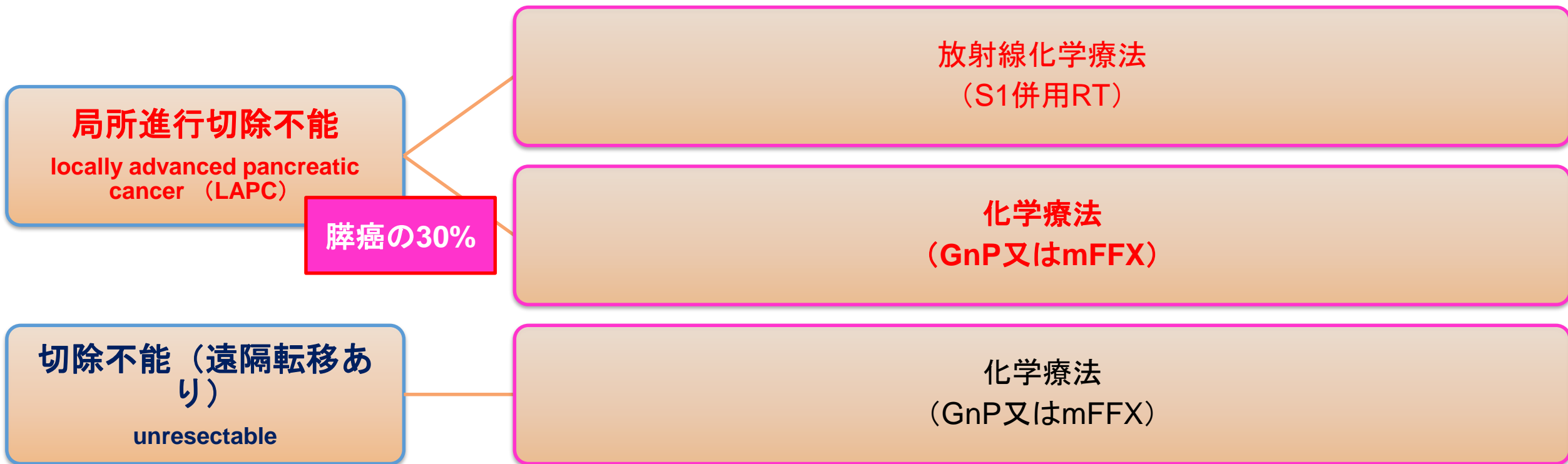
# 膵癌の治療アルゴリズム



# 局所進行切除不能膵癌（LAPC）の標準治療



- ✓ 切除不能な膵癌の治療の第一選択は化学療法.
- ✓ 局所進行（LAPC）については，化学放射線療法も選択肢となる.



初診時切除不能である局所進行膵癌に対する集学的治療後の原発巣切除は推奨されるか？

### ステートメント

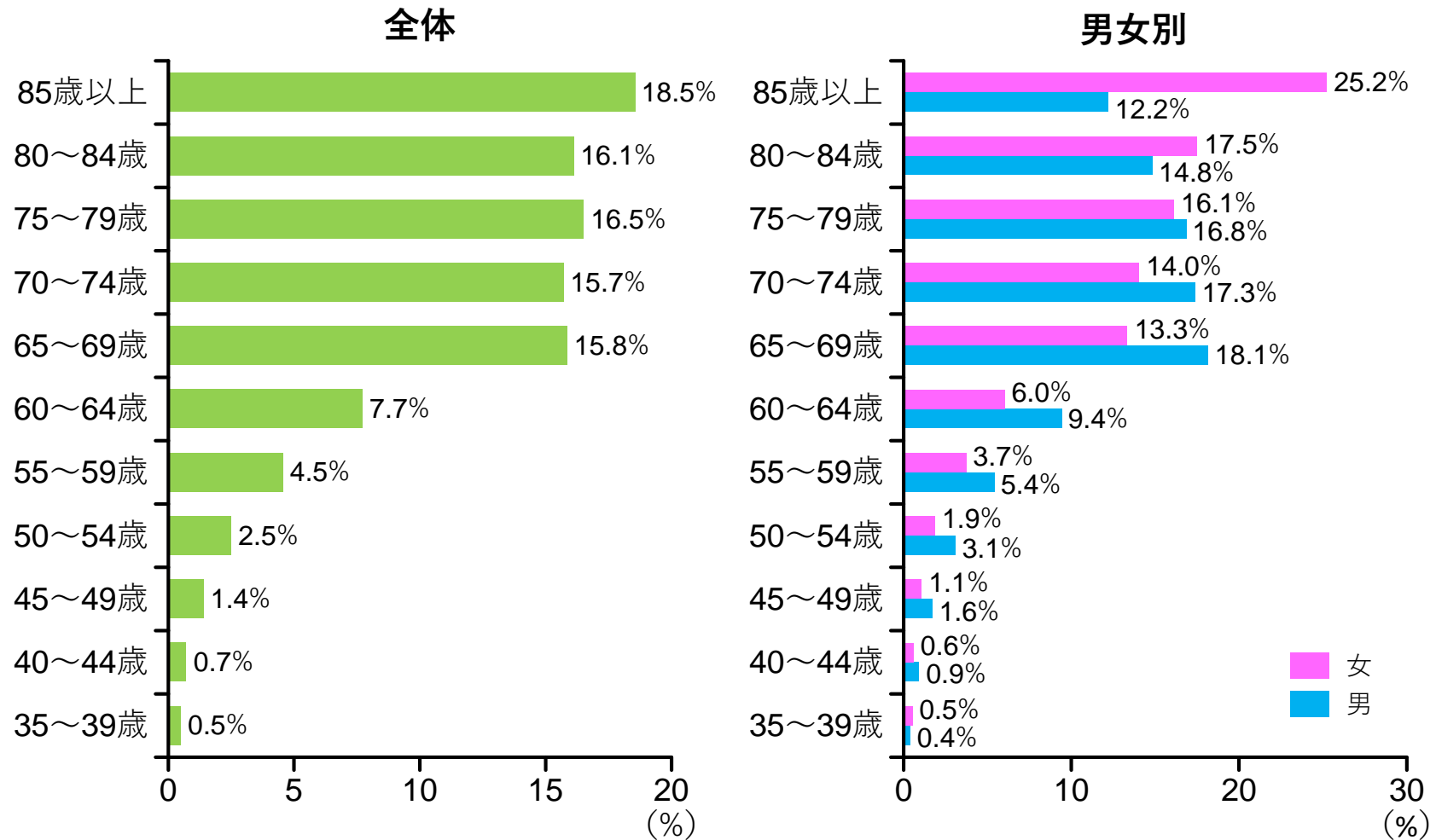
初診時切除不能である局所進行膵癌に対して行った集学的治療が奏効し治癒切除が可能と判断された患者には、原発巣切除を行うことを提案する。

[推奨の強さ：弱い, エビデンスの確実性(強さ)：C(弱)]

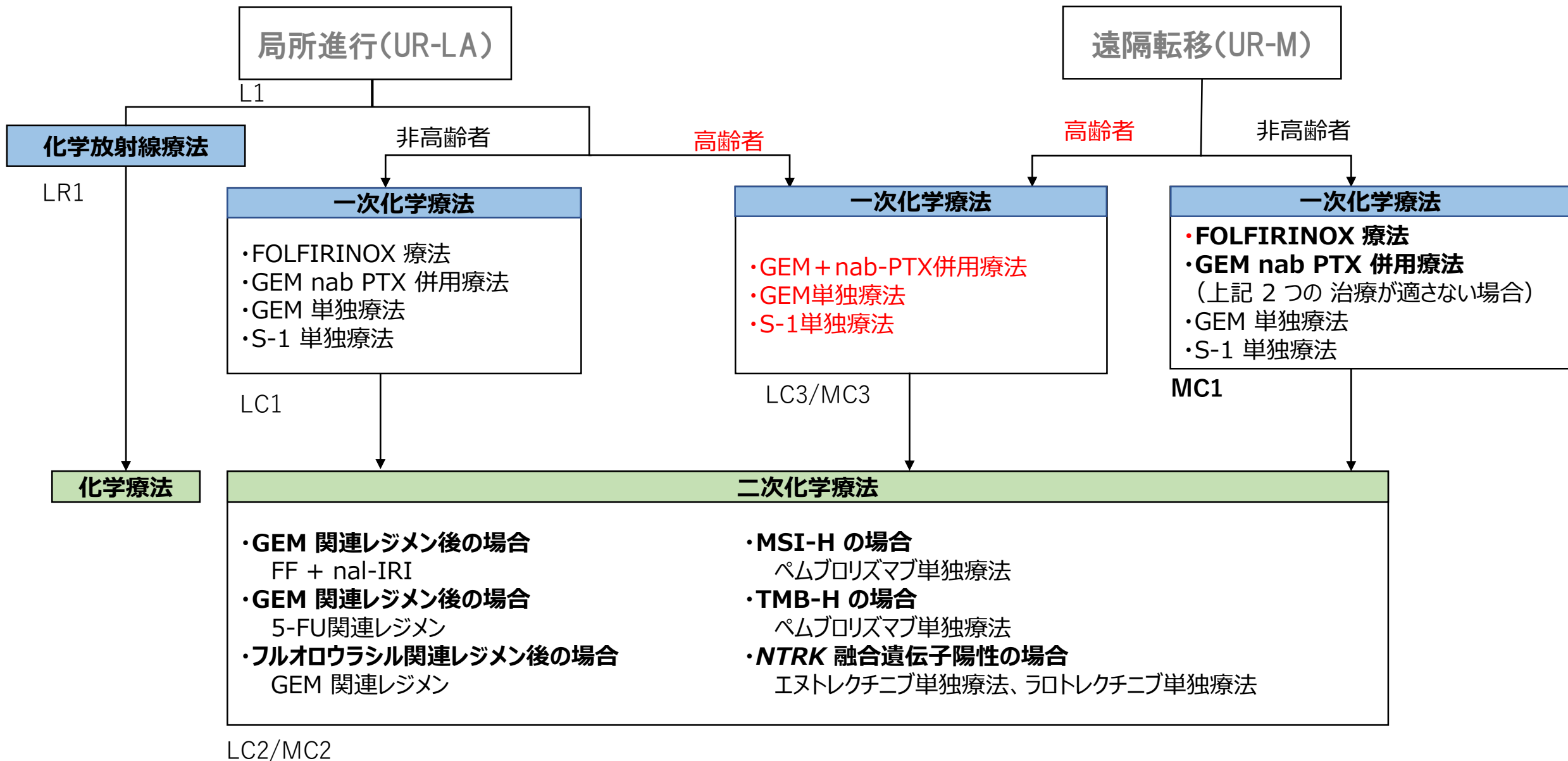
## 明日への提言

局所進行切除不能膵癌に対するconversion surgeryは長期予後が期待される治療法であるが、術後早期に再発・死亡を認める患者も一定の割合で存在している。Conversion surgeryの適応については、根治切除が可能な状態で切除が行われているが、明確な基準はない。腫瘍縮小を認めたすべての患者にconversion surgeryを行うのではなく、恩恵を享受できる患者を選別するために、最適な集学的治療のレジメン・治療期間・局所病変の評価法・術後補助療法の必要性の有無などの臨床的課題を今後前向きに検証すべきと考えられる。

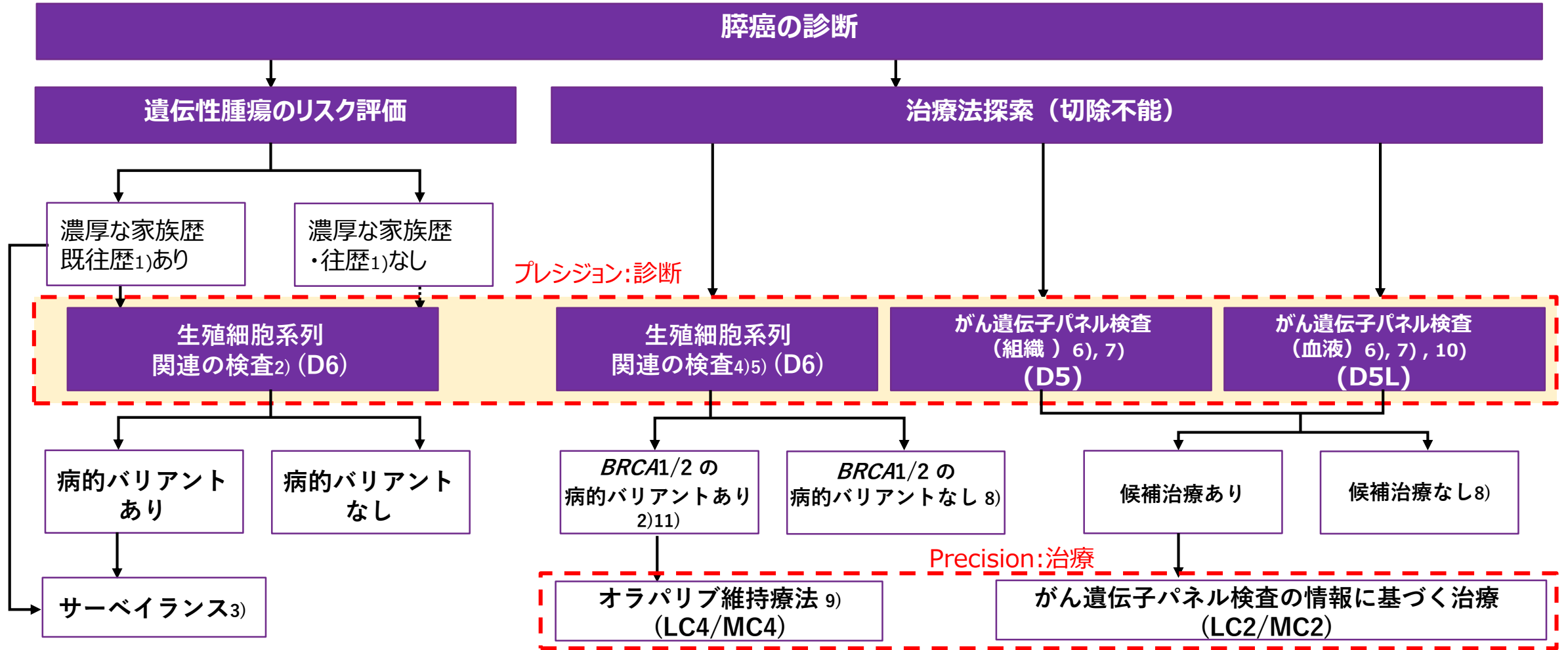
# 膵癌新規罹患患者の年齢分布



# 膵癌診療ガイドライン2022年版 化学療法アルゴリズム



# 膵癌診療ガイドライン2022年版 プレジジョンメディスナルgorithm



1) D4解説文を参照, 2) 遺伝相談外来を受診, 3) 血縁者の遺伝子関連リスク臓器のサーベイランス、本人の膵癌以外のサーベイランス, 4) コンパニオン診断(BRCAAnalysis診断システム), 5) 保険適応上の条件：全身化学療法前に実施可, 6) 保険適応上の条件：標準療法後, 7) 生殖細胞系列病的バリエーション or それを疑う体細胞変異を認めた場合、遺伝相談を考慮 (D7,8), 8) 遺伝子検査の情報に基づかない標準療法を実施する, 9) プラチナレジメンで一定期間病勢コントロールされた場合, 10) 保険適応上の条件：腫瘍細胞を検体として検査が困難な場合、結果を得られなかった場合, 11) BRCAAnalysis診断システムの「POSITIVE FOR A DELETERIOUS MUTATION(病的変異)」と「GENETIC VARIANT, SUSPECTED DELETERIOUS(病的変異疑い)」

早期発見に  
対する  
家族性膵癌

生殖細胞系列  
BRCA変異に対  
する治療の登場

がんゲノム医療  
の進展